

主要産地における令和5年度水稲の生育状況等について 第14報 (令和5年8月18日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(令和5年8月18日)

道府県	区分	生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)		技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
		生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)		
北海道	(生育)	【生育状況(8月1日現在)】 (全道) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道農政部 8月7日付) (空知) 生育は早く進んでいる。(空知総合振興局 8月7日付) (石狩) 生育は平年より早い。(石狩振興局 8月7日付) (後志) 遅延は早6日。(後志総合振興局 8月7日付) (胆振) 7月下旬が高温多湿で経過したため生育が進み、生育は平年より早い。(胆振総合振興局 8月7日付) (日高) 高温により生育の遅延は平年より早く進んでいる。(日高振興局 8月7日付) (釧路) 生育は平年より早く進んでいる。(釧路総合振興局 8月7日付) (十勝) 生育は平年より早く進んでいる。(十勝総合振興局 8月7日付) (上川) 高温により、生育はやや早い。(上川総合振興局 8月7日付) (網走) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(網走振興局 8月7日付) (オホーツク) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(オホーツク総合振興局 8月7日付)		(全国) 暑からエルニーニョ現象が続いているとみられる。 今後、冬にエルニーニョ現象が続く可能性が高い(90%)。 (気象庁 8月10日付) 【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁札幌管区気象台) 北海道地方は8月20日頃からかなりの高温。 (札幌管区気象台) 向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「なつげし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 令和5年3月15日) (出典資料は以下同じ)
		・本年は、出穂期が平年に比べて6日程度早く、その後も県内全域において高温で経過したことから、刈取適期は平年より大幅に早まる見込み。 ・主な地域における出穂最盛期からの積算気温(900℃)で算出した刈取適期は、9月6日～9日頃となり、平年より10日程度早まると予測される。また、今後かなりの高温が続く予想となっており、さらに早まる可能性がある。 ・出穂が特に早い地域や、穂数が少ない場合は、さらに早まると予想されるほか、刈り遅れによる白米熟粒や胴割粒等の品質低下が懸念される。 (青森県 8月17日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 東北地方は8月20日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台) 向こう1か月のいもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「まっすぐ」及び「つがるロケット」を中心とする品種構成となっている。
青森	(生育)	・8月9日現在の県全体の出穂割合は98%(平年差+5ポイント)となっており、総額(90%)の到達は平年より5日早い8月4日頃となった。 ・県内の水稲の出穂遅率(50%)は平年より3日早い8月1日頃となった。 (岩手県 8月10日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 東北地方は8月20日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台) 向こう1か月のいもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「むとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県内での主要品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。
		【出穂状況(8月9日現在)】 ・水稲作付見込面積の99.2%の水田が出穂期に達している。県全体の穂揃期は、8月5日で平年より5日早い。 (宮城県 8月10日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 東北地方は8月20日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台) 向こう1か月のいもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「むとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
宮城	(生育)	・「はえぬき」「雪若丸」は乳熟期、「つや姫」は出穂期～穂揃期となっている。 (山形県 8月7日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 東北地方は8月20日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台) 向こう1か月のいもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
		・「はえぬき」「雪若丸」は乳熟期、「つや姫」は出穂期～穂揃期となっている。 (山形県 8月7日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 東北地方は8月20日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台) 向こう1か月のいもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。
山形	(生育)	・「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月23日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測日は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。 (茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 8月3日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁)	「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天の志」が増加しており、関係者への転換が増加していることから比率はやや低下したものの、まだ増加が見込まれる。
		・「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月23日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測日は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。 (茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 8月3日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁)	「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちの星」が増加傾向にある。
茨城	(生育)	【8月7日現在、龍ヶ崎】 ・出穂期は「あきたこまち」で平年より1日早い7月11日、「ふくまるS」で平年より3日早い7月13日、「コシヒカリ」で6日早い7月18日だった。 ・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で4日早い8月19日、「コシヒカリ」で7日早い8月29日である。 (茨城県農業総合センター-農業研究所水田利用研究室 8月7日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)	「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちの星」が増加傾向にある。
		【8月2日現在、水戸市】 ・出穂期は「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月23日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測日は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。 (茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 8月3日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)	「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天の志」が増加しており、関係者への転換が増加していることから比率はやや低下したものの、まだ増加が見込まれる。
福島	(生育)	・「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月23日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測日は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。 (茨城県農業総合センター-農業研究所水田利用研究室 8月7日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)	「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちの星」が増加傾向にある。
		・「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月23日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測日は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。 (茨城県農業総合センター-農業研究所水田利用研究室 8月7日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)	「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちの星」が増加傾向にある。
栃木	(生育)	【生育概況(出穂調査)】 ・「早稲コシヒカリ」 ・出穂期は7月23日前年より4日早い(前年差0～6日)。最終実粒(止葉)は前年と同じ13.1葉。葉色は全体的に淡い傾向。 ・「早稲とちぎの星」 ・出穂期は7月29日前年より3日早い(前年差1～7日)。最終実粒(止葉)は前年と同じ13.0葉。葉色は全体的に淡い傾向 ・「普通稲とちぎの星」(8月3日調査) ・前年に比べ実粒は短く、茎数は多い、葉色は淡い。前年に比べて3～5日程度遅んでいる。 (栃木県農政部長官技術課 8月10日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月のいもち病、結実枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちの星」が増加傾向にある。
		【生育概況(出穂調査)】 ・「早稲コシヒカリ」 ・出穂期は7月23日前年より4日早い(前年差0～6日)。最終実粒(止葉)は前年と同じ13.1葉。葉色は全体的に淡い傾向。 ・「早稲とちぎの星」 ・出穂期は7月29日前年より3日早い(前年差1～7日)。最終実粒(止葉)は前年と同じ13.0葉。葉色は全体的に淡い傾向 ・「普通稲とちぎの星」(8月3日調査) ・前年に比べ実粒は短く、茎数は多い、葉色は淡い。前年に比べて3～5日程度遅んでいる。 (栃木県農政部長官技術課 8月10日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月のいもち病、結実枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)	「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちの星」が増加傾向にある。

<p>干 葉</p> <p>(生育状況等)</p> <p>・7月は平年より気温が高く、日照時間が長い状況で推移した。このため、幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より1日早く、「コシヒカリ」「新すけ」は4日早く出穂期を迎えている。なお、「ふさおとめ」は穂数がやや少なめで穂長がやや長めとなっている。いずれの品種も、出穂後の葉色は平年並からやや濃くなっている。</p> <p>・成熟期は4月20日播きの「ふさおとめ」が8月9日から、「ふさこがね」は8月14日から、「コシヒカリ」「新すけ」は8月20日からと予測される。なお、播きよりも葉色が低下したり水が不足した場合は成熟期が早まる可能性もある。</p> <p>(千葉県 7月26日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月踏み込みカメシノの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が増減し、収量水準の低い「ゆきんすけ」「つぎあか」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、従って高品質「新さくら」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
<p>新 潟</p> <p>(生育)</p> <p>・早生は早熟中期、「コシヒカリ」は出穂期から穂揃期、「新の助」は間もなく出穂が始まる時期となっている。</p> <p>(新潟県 8月4日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月カメシノ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あまのつばき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が増減し、収量水準の低い「ゆきんすけ」「つぎあか」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、従って高品質「新さくら」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
<p>富 山</p> <p>(生育)</p> <p>【7月18日現在】(生育状況)</p> <p>・「コシヒカリ」平年に比べ、草丈、葉色、葉数はやや少なくなっている。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんたかく」5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、近年より1日早い7月15日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月19日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんこもり」平年に比べ、草丈、葉数、葉色は並であった。幼穂形成期は、平年に比べ1日遅い7月13日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日遅い8月4日頃と見込まれる。</p> <p>・「富富富」近年に比べ、草丈、葉数、葉色は並であった。幼穂形成期は、近年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県 7月18日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月カメシノ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっており、近年高温多湿でも品質が安定している「てんたかく」及び「てんこもり」系のトップブランドに位置づけられている「富富富」が増加傾向にある。</p>
<p>石 川</p> <p>(生育)</p> <p>【8月10日現在】</p> <p>・早生は早熟中～後期、中生は早熟中、晩生は出穂期～穂揃期となっている。</p> <p>(石川県農林総合研究センター 8月10日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月カメシノ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あまのつばき」を中心とする品種構成であるが、近年、親オリジナル品種の「ひくまの穂」が増加傾向にある。</p>
<p>福 井</p> <p>(生育)</p> <p>【7月12日調査】</p> <p>・5月2日移植「ハナエチシ」の出穂期は7月14日、成熟期予測は8月13日。</p> <p>※気象条件によって変動する。登熟の進み方は地域差がある。</p> <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月8日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月カメシノ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエチシ」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「ほほまれ」が増加傾向にある。</p>
<p>長 野</p> <p>(生育)</p> <p>【水稲の生育状況】(8月6日現在)</p> <p>・豊科定点圃場の調査では、「あきたこまち」の出穂期は7月22日で平年より5日早、「コシヒカリ」の出穂期は8月2日で平年より6日早。現地の平地地では、早生品種が7月21日～7月26日頃に出穂期を迎え、「コシヒカリ」は7月末～8月5日頃に出穂期を迎える圃場が多い模様。今年15日前半までに収穫された圃場が多いため、出穂期が早い圃場が多いと思われる。</p> <p>・出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まることと予想される。また今後の気温もかなり高いと予想されており、高温による登熟遅延が懸念される。</p> <p>(松本農業農村支援センター技術経営普及課 8月9日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。親のオリジナル品種「ほほまれ」の導入を推奨している。</p>
<p>滋 賀</p> <p>(生育)</p> <p>【水稲作況調査】</p> <p>・「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年並、葉数は少ない(7月10日)。</p> <p>・葉色は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年より薄く、主葉数は「みずかがみ」は平年より0.2枚多く、「コシヒカリ」は0.3枚多い(7月20日)。</p> <p>・出穂期は、「みずかがみ」では平年より1日遅い7月23日、「コシヒカリ」は平年と同じ7月27日であった。</p> <p>(滋賀県農業技術普及センター 7月27日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿に耐えた「みずかがみ」の作付が増進している。</p>
<p>兵 庫</p> <p>(生育)</p> <p>【7月31日時点】(南播磨)</p> <p>・播種済みの「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈が平年並やや長く、葉数はやや少ない。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べて長く、葉数は「ヒノヒカリ」及び「きぬむすめ」で少ない。</p> <p>(備前部)</p> <p>・草丈は平年並、葉数は平年並～極めて多い。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早く見込みである。</p> <p>(兵庫県 8月4日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山崎」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推奨している。</p>
<p>岡 山</p> <p>(生育)</p> <p>【生育状況】</p> <p>・早生品種は、出穂が平年より早く始まり、葉数は平年並～少ない。</p> <p>・このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると思われる。</p> <p>・中生・晩生品種は、分けつ期～幼穂形成期で、葉数は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県農林水産総合センター 7月31日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月プロノメイガ、斑点米カメシノ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
<p>広 島</p> <p>(生育)</p> <p>【8月10日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター一圃場(東広島市八本松町)</p> <p>()内は平年値</p> <p>・「コシヒカリ」(密播) 草丈:105.6cm、葉数:420本/m²、葉色(SPAD値)36.9、葉齢12.3</p> <p>・「あきまふん」(密播) 草丈:91.2(96.7)cm、葉数:454(395)本/m²、葉色(SPAD値)36.0(34.3)、葉齢14.7(14.7)</p> <p>・「ヒノヒカリ」(密播) 草丈:87.3(95.1)cm、葉数:422(384)本/m²、葉色(SPAD値)33.4(31.1)</p> <p>・「恵の予感」(普通播) 草丈:85.6cm、葉数:274本/m²、葉色(SPAD値)33.3、葉齢14.9</p> <p>・「あきさかり」(普通播) 草丈:94.4cm、葉数:409本/m²、葉色(SPAD値)37.1、葉齢13.0</p> <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 8月14日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月20日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月プロノメイガ、斑点米カメシノ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>

(生育状況等)			
愛 媛	<p>【2023年度「ひめの涙」の生育状況（8月3日現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月14日移植、田植え後50日時点での茎数は22.4本/株で昨年よりやや少なく、草丈、葉色（SPAD値）はいずれも平年より低い。 5月22日移植 7月10日調査 <ul style="list-style-type: none"> 草丈（cm）61.4、茎数（本/㎡）362、一株あたり茎数（本/株）23.9、葉色（SPAD値）32.8 6月1日移植 7月21日調査 <ul style="list-style-type: none"> 草丈（cm）68.4、茎数（本/㎡）320、一株あたり茎数（本/株）21.1、葉色（SPAD値）32.1 6月14日移植 8月3日調査 <ul style="list-style-type: none"> 草丈（cm）67.6、茎数（本/㎡）339、一株あたり茎数（本/株）22.4、葉色（SPAD値）31.4 <p>（愛媛県農林水産研究所 8月7日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 （気象庁高松地方気象台）</p> <p>四国地方は8月20日頃からかなりの高温。 （気象庁松山地方気象台）</p> <p>向こう1か月斑点葉カメムシの発生が多いと予想される。 （農林水産省 8月9日付）</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【7月月報】</p> <p>（早期稲）</p> <ul style="list-style-type: none"> 出穂時期は平年並であったが、収穫時期は平年並～やや遅く、「南風そだち」は7月21日頃から、「よさこい美人」は28日頃から、「コシヒカリ」は8月初頃からとなりそうである。収穫量は平年並になる見込み。 <p>（普通稲）</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈、茎数とも平年並で、全体的に遅延傾向に生育しているが、葉いもちの発生が見られる場所があり、ズリ込み症状の場所もある。出穂時期は品種間でばらつきが生じている。 <p>（高知県病害虫防除所 8月3日付）</p> <p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> （早期栽培） やや不良。（農林水産省 7月31日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 （気象庁高松地方気象台）</p> <p>四国地方は8月20日頃からかなりの高温。 （気象庁松山地方気象台）</p> <p>向こう1か月斑点葉カメムシの発生が多いと予想される。 （農林水産省 8月9日付）</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」。普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>【7月14日調査】（農林業総合試験場における生育概況）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「夢つくし」の草丈は、平年より11%長く、茎数が23%少なかった。「元氣つくし」および「ヒノヒカリ」では、平年と比べ、草丈は平年並～15%長く、茎数は16～43%少なかった。「実りつくし」では、前8年と比べ、草丈は3%長く、茎数は38%少なかった。 各品種とも主幹葉数は平年並～平年より0.6葉ほど少なく、生育は平年並～やや遅れている。 <p>（福岡県・福岡県米穀品質改善協会 7月19日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 （気象庁福岡管区気象台）</p> <p>九州北部地方は8月20日頃からかなりの高温。 （福岡管区気象台）</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元氣つくし」を中心とする品種構成であるが、「元氣つくし」が増加傾向となっている。県では「実りつくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 （気象庁福岡管区気象台）</p> <p>九州北部地方は8月20日頃からかなりの高温。 （福岡管区気象台）</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> （早期栽培） 平年並。（農林水産省 7月31日付） <p>（生育） 【作物の生育状況（7月中旬）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通稲水稲は分けつ期。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みどり38」への作付誘導が進められている。</p>
鹿 児 島	<p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> （早期栽培） やや不良。（農林水産省 7月31日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月19日～9月18日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」。普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「みどり38」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：県及び地方自治体、関係機関等がホームページで公表している資料を本報編集情報部で取り纏め。
注2：生育状況等（栽培体系等）公表資料の提供については令和5年8月18日19時時点での取り纏め。
注3：更新情報は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 8月1日現在(北海道農政部 8月7日)、
農作物生育状況 8月1日現在(北海道空知総合振興局 8月7日)、
農作物生育状況 8月1日現在(北海道石狩振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道後志総合振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道胆振総合振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道日高振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道渡島総合振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道檜山振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道上川総合振興局 8月7日)、
農作物生育状況調査の概要 8月1日現在(北海道留萌振興局 8月7日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月7日)、
臨時農業生産情報(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 8月17日)、
岩手県内の水稲の出穂状況(8月9日現在概況速報)について(岩手県 8月10日)、
令和5年度水稲の出穂状況について(8月9日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 8月10日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月18日閲覧)、
米づくり技術情報No.15(山形県 8月7日)、
主要な農作物の生育情報 令和5年度第5号(福島県農林水産部農業振興課 8月9日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月3日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月7日)、
水稲生育診断速報No.6(栃木県農政部長官技術課 8月10日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、
水稲の生育と今後の管理対策(高温対策臨時号 第2号)(新潟県農林水産部 8月4日)、
TACS情報第8号(富山県 7月18日)、
台風7号の接近に伴う被害防止対策について(石川県農林総合研究センター 8月10日)、
稲作情報No.13(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月8日)、
適期刈取で1等米100%をめざしましょう!(松本農業農村支援センター 8月9日)、
令和5年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月27日)、
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.4(8月情報)(兵庫県農林水産部 8月4日)、
水稲の高温による品質低下防止対策について(岡山県農林水産総合センター、岡山県農業気象技術担当者会議 7月31日)、
水稲生育状況(令和5年8月10日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 8月14日)、
2023年度「ひめの雫」の生育状況(8月3日現在)(愛媛県農林水産研究所 8月7日)、
福岡県米麦大豆生産改善速報第2号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 7月19日)、
令和5年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月26日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日気象庁)、
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日広島地方気象台)、
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(8月17日鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日気象庁)、
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日広島地方気象台)、
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日鹿児島地方気象台)、

早期天候情報(8月14日14時30分 気象庁)、
エルニーニョ監視速報(No.371)について(気象庁 8月10日)、

令和5年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月31日)
令和5年度病害虫発生予報第6号(農林水産省 8月9日)、
令和5年度水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)